

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 14 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 6 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。

・運営推進会議に自治会や民生委員、行政機関、地域包括支援センター、入居者が参加し、生活状況が見えるように取り組んでいる。また、自治会行事に参加し、地域とのかかわりを設けている。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会をとらえ、ご家族の思いにも寄り添うように信頼関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは眼前に広がるのどかな田園に季節を感じることができる自然景観の良い場所に立地し、建物内は採光に優れて明るく、和の設えが家庭的で和やかな雰囲気を醸し出している。「利用者が地域の中で自由と安全と楽しみを持って暮らすこと」を理念のワードとして掲げ、その人の価値観やライフスタイルに沿ったサービス提供の観点から、本人の「やりたいこと」を支えるとともに、関係機関や関係職種と連携した支援に努めている。また、地域に開かれたホームとして、近隣の方々や散歩の機会に挨拶を交わしたり、地域行事に参加する等、各種交流に取り組んでいる。運営推進会議でも多くの参加者を得て、ホームの運営状況や利用者の日々の暮らしぶり等を報告している。さらに、ホーム独自の介護計画書、実地記録の様式を用いて、計画作成やそれに基づいたケア実践を行っている。食事は、ユニットごとに利用者と食べたいものを相談しながら献立を考え、調理し、季節の行事食も取り入れている。主治医や訪問看護等との医療連携体制を整備し、看取りケアを実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。	理念は玄関に掲示し、確認ができるようにしている。ユニット会議やミーティングの際には確認し、職員間で意識を高めている。また、日常的な業務の中でケアを振り返り、理念に基づいた実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、きらくカフェ、芋煮会など様々な行事を中止している。しかし、地域の夏祭りや春祭り、各種行事に自治会等からご案内を頂き、参加している。グループホームの通信を自治会で回覧していただいた。	今年度もコロナ禍の影響下にあり、感染防止のため、ホームの行事は中止しているが、地域行事にはお誘いに応じて、地域に出向き参加している。また、ホームの活動を地域に発信すべく、「きらく通信」を自治会の回覧板で回している。	今後、コロナ禍の状況改善を睨んで、さらなる地域交流の一環として、新規ボランティアの開拓も含め、地域のボランティア受け入れの再開に向けた取り組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、サービスの提供状況を報告している。入居者も参加し、サービス評価を行っている。それに対して、運営推進会議委員の意見や助言、スタッフの意見を交換している。身体拘束委員会を兼ねて開催している。	コロナ禍対策のため、人数を制限しながら対面での会議を行っているが、事前に年間予定を出して参加を促している。会議には利用者も参加し、ホームでの生活の様子を報告したり、感染対策等について、意見交換を行っている。依然としてコロナ禍の状況にあるが、改善状況に合わせて徐々に多くの方々に参加してもらっているとの事である。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加して頂き、事業所の状況をお伝えしたり雰囲気を見て頂いたりし協力関係を築くように努めている。地域ケア会議、認知症になっても安心まちづくり協議会にも委員を派遣している。	地域や市の行政機関に出向いて、運営状況の報告や制度情報の提供を受ける等、連携を深めている。また、地域での会議や委員会に職員を派遣し、市担当者等と顔が見える関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねて実施している。	身体拘束に関する研修を受講した職員が中心となり、ホーム内の研修を行っている。また、委員会を設置し、話し合う場を設けている。家族には、身体拘束をしないケアについてのホームの方針を契約時や見学の際に説明して、理解を促している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。	利用者に接する際に、自分の立場に置き換えて考える事で虐待につながらない支援に努めている。支援が困難な場合には、職員間で話し合う場を設け、ひとりで抱え込まないようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、ご利用者の様子をお伝えしたり、来所して頂いた際には、ご家族との意見交流を密にして信頼関係を築けるよう心掛けており、頂いた意見を日々の生活や行事に反映している。	毎月、写真付きの「きらく通信」を送付したり、面会等の来訪の際には、日々の様子を伝える等して信頼関係を築くべく努めている。意見をいただいた際には、職員間で情報共有し、日々のケア実践の質の向上に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催しており、ユニット間の情報共有を行っている。隔月でユニットごとのミーティングを行っており、ケア方法の統一や運営への意見を確認している。	ユニット会議を行い、各ユニットから出た意見は、毎月行っているリーダー会議で報告をしている。会議では課題を共有するとともに、課題改善に向けた話し合いを行う等して、ホームの運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。計画的に、認知症介護実践者研修を受講している。	職員の休みや勤務の希望を確認し、勤務表を作成している。希望を確認する事で、それぞれの個別事情に応じて、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を積極的におこないながら、育成への取り組みに努めている。マニュアル等の整備をしながら、すべてのスタッフが同じ取り組みができることを目指している。	マニュアルを作成し、スタッフが同じ処遇を受けられるようにしている。新規スタッフには指導するスタッフが付き、OJT指導を丁寧に行う等、業務能力向上に向けた取り組みを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	人生の先輩であることを忘れず尊重し、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。家事仕事等は、できる限り共にを行い、穏やかな日常生活を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。	利用者の意思を尊重する観点から、アセスメントシートを活用し、自宅での生活の様子や個性、心身状況等を把握している。日々、利用者に関心を寄せつつ、暮らしの中での会話等のコミュニケーションを通じて、利用者の意向やニーズを確認し、利用者の思いに沿ったケアに努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族の思いを確認し、アセスメントをもとに、ケアプランの作成を行うよう努めている。その後スタッフ全員が内容を把握してケアへとつなげている。	ケアプランはホーム独自の様式を用いて、利用者・家族の意向を踏まえて作成している。また、モニタリングを実施し、定期的に若しくは、利用者の状況変化に応じて、随時にケアプランの見直しを行い、全職員共有の下、ケア実践に反映させている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。記録はご家族へ開示している。	24時間シートの個人記録表(生活の様子・健康面)を作成し、毎日記録している。特記事項は個人記録表に記入するだけでなく業務日誌に記録し、申し送りにおいて、職員への周知を図っている。個別支援計画にも連動しており、計画に基づいたケア実践につなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。	利用者や家族の状況、意向に応じ、柔軟に様々な対応を行っている。社会福祉協議会からは、福祉車両の貸与を受け、移送支援を行っている。また、訪問看護や薬局等との連携も深めている。看取りの際は、医療や関係事業所との連携を強化し、できる限りの対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、これまでの社会資源とのつながりを維持できるように検討している。(友人、美容院、医療機関、社会福祉協議会など)		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。	かかりつけ医の選択は自由であり、従来の主治医を継続している利用者や協力医の訪問診療を受けている利用者等、様々である。定期的な往診時等には連絡を綿密にする等して、情報共有している。また、訪問看護とも連携する等、利用者にとって最善の医療的支援につなげることができるよう努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。	入院時には情報提供を行い、入院から退院に至るまでの間の情報交換に努め、利用者が安心してホームに戻れるよう支援している。また、入退院時の移送支援をする場合もある。医療機関と連携を密にし、退院後の生活の留意点を確認した上でスタッフ全員で共有し、ケアにあたっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。	入居時に、重度化した場合の看取りの方針や終末期の在り方について説明し、同意を得ている。終末期には、対応できるケアについて検討し、医療と連携を図りつつ、コロナ禍においても家族が寄りそえるよう配慮して支援に努めている。。ターミナルケア研修やカンファレンス時の勉強会等で最良な看取りケアのあり方について検討している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の消防・避難訓練、年2回の法定の消火・通報・避難訓練を行っている。急変時に対応できるように、普通救命講習を受講した年度もある。AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。	毎月、発災場所を替えて避難訓練を実施し、利用者と避難経路を確認している。近隣の介護施設や地域団地住民との協力体制も築いている。また、不測の事態に備え、BCP計画を作成して対策を講じている。さらに、備蓄や発電機もあり、災害時の備えを充実化している。能登地震の被災要介護者の受け入れを申告する等、災害における社会貢献にも寄与している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努力している。居室に入る際はお声掛けして入室するように心がけている。	利用者オリエンテッドな観点から、利用者の生活歴を聴き取り、利用者のこれまでの人生、ライフスタイルや大切に思っていることを理解し、尊厳ある対応について心がけている。カンファレンスや研修で接遇や尊厳について学ぶ機会を設け、ケアの質を高めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことを希望しておられるのか、日常の動きの中から気付いたり、スタッフが声掛けしながら、自己決定できるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし集団生活の中でも一人の時間を大切に過ごして頂いたり、自主的に何かしたいと希望されれば、できる限りは叶えられるような支援をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等をする事で、より達成感を満たせるよう支援しています。	セントラルキッチン(就労支援)から届く食材に手を加え、調理しているが、食材の自己調達も行っている。利用者と話し合い、その日にある材料を使ってメニューを決めており、ユニットごとにメニューが異なっている。正月や節句等の季節行事食は、利用者の楽しみになっている。また、食前に口腔体操を行うとともに、身体状況を踏まえた食事を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを工夫しながら、偏りがないように気を付けています。チェック表を使用しながら、個々に必要物を提供できるようにしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアは声かけをし、ご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。	1日3回の口腔ケアを実施している。自分のできる利用者には声かけ等して促し、困難な方には見守り、必要な時には介助をし、清潔を維持している。夜間の義歯の管理も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを見つけながら、自然な流れでトイレへ向かえるよう、声掛けしています。できる限り自立できるように支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くならないように努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。	薬の内容をカルテにファイルして、職員皆が確認できるようにしている。薬効や副作用等について職員間で共通理解している。一包化された内服薬を利用者に渡す時、あるいは介助時に、飲み忘れの無いよう確認している。変更事項や注意点がある場合は、申し送り、記録に記述し、全職員が共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。	利用者それぞれの意向や能力に応じて、今まで行なっていた役割や楽しみが継続できるよう支援している。編み物が得意な方は作品づくりにいそしみ、ホームに提供していただいている。その他、料理、草刈り、芋掘り、ぬり絵、計算、書道等、多くの趣味活動を楽しんでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。	ホームの周りの散策や中庭のテラスで外気浴ができ、いつでも、気分転換ができる環境である。また、プランターで花を栽培したり、近隣団地の花見にも出かけたりして楽しんでいる。今後は、地域行事の参加等を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。	リビングには、利用者それぞれのテーブルが置かれ、利用者はそこかしこで自由にぬり絵や編み物、計算等を楽しんでいる。また、書道や季節の作品が壁に掲示されている等、居心地良く過ごせる空間となっている。廊下とテラスからの採光に優れ、明るく落ち着いた空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット別になっているが建物内は自由に行き来できるようにしており、一人で移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守り連絡を取り合っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 14 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 6 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。

・運営推進会議に自治会や民生委員、行政機関、地域包括支援センター、入居者が参加し、生活状況が見えるように取り組んでいる。また、自治会行事に参加し、地域とのかかわりを設けている。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会をとらえ、ご家族の思いにも寄り添うように信頼関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、さくらカフェ、芋煮会など様々な行事を中止している。しかし、地域の夏祭りや春祭り、各種行事に自治会等からご案内を頂き、参加している。グループホームの通信を自治会で回覧していただいた。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、サービスの提供状況を報告している。入居者も参加し、サービス評価を行っている。それに対して、運営推進会議委員の意見や助言、スタッフの意見を交換している。身体拘束委員会を兼ねて開催している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加して頂き、事業所の状況をお伝えしたり雰囲気を見て頂いたりし協力関係を築くように努めている。地域ケア会議、認知症になっても安心まちづくり協議会にも委員を派遣している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねて実施している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、ご利用者の様子をお伝えしたり、来所して頂いた際には、ご家族との意見交流を密にして信頼関係を築けるよう心掛けており、頂いた意見を日々の生活や行事に反映している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催しており、ユニット間の情報共有を行っている。隔月でユニットごとのミーティングを行っており、ケア方法の統一や運営への意見を確認している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。計画的に、認知症介護実践者研修を受講している。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を積極的におこないながら、育成への取り組みに努めている。マニュアル等の整備をしながら、すべてのスタッフが同じ取り組みができることを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず尊重し、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。家事仕事等は、できる限り共にいき、穏やかな日常生活を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族の思いを確認し、アセスメントをもとに、ケアプランの作成を行うよう努めている。その後スタッフ全員が内容を把握してケアへとつなげている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。記録はご家族へ開示している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、これまでの社会資源とのつながりを維持できるように検討している。(友人、美容院、医療機関、社会福祉協議会など)		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の消防・避難訓練、年2回の法定の消火・通報・避難訓練を行っている。急変時に対応できるように、普通救命講習を受講した年度もある。AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努力している。居室に入る際はお声掛けして入室するように心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことを希望しておられるのか、日常の動きの中から気付いたり、スタッフが声掛けしながら、自己決定できるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし集団生活の中でも一人の時間を大切に過ごして頂いたり、自主的に何かしたいと希望されれば、できる限りは叶えられるような支援をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等をする事で、より達成感を満たせるよう支援しています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを工夫しながら、偏りがないように気を付けています。チェック表を使用しながら、個々に必要物を提供できるようにしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアは声かけをし、ご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを見つけながら、自然な流れでトイレへ向かえるよう、声掛けしています。できる限り自立できるように支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くないように努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット別になっているが建物内は自由に行き来できるようにしており、一人で移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守り連絡を取り合っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 14 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 6 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。

・運営推進会議に自治会や民生委員、行政機関、地域包括支援センター、入居者が参加し、生活状況が見えるように取り組んでいる。また、自治会行事に参加し、地域とのかかわりを設けている。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会をとらえ、ご家族の思いにも寄り添うように信頼関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、さくらカフェ、芋煮会など様々な行事を中止している。しかし、地域の夏祭りや春祭り、各種行事に自治会等からご案内を頂き、参加している。グループホームの通信を自治会で回覧していただいた。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、サービスの提供状況を報告している。入居者も参加し、サービス評価を行っている。それに対して、運営推進会議委員の意見や助言、スタッフの意見を交換している。身体拘束委員会を兼ねて開催している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加して頂き、事業所の状況をお伝えしたり雰囲気を見て頂いたりし協力関係を築くように努めている。地域ケア会議、認知症になっても安心まちづくり協議会にも委員を派遣している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねて実施している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、ご利用者の様子をお伝えしたり、来所して頂いた際には、ご家族との意見交流を密にして信頼関係を築けるよう心掛けており、頂いた意見を日々の生活や行事に反映している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催しており、ユニット間の情報共有を行っている。隔月でユニットごとのミーティングを行っており、ケア方法の統一や運営への意見を確認している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。計画的に、認知症介護実践者研修を受講している。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を積極的におこないながら、育成への取り組みに努めている。マニュアル等の整備をしながら、すべてのスタッフが同じ取り組みができることを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず尊重し、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。家事仕事等は、できる限り共にに行い、穏やかな日常生活を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族の思いを確認し、アセスメントをもとに、ケアプランの作成を行うよう努めている。その後スタッフ全員が内容を把握してケアへとつなげている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。記録はご家族へ開示している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、これまでの社会資源とのつながりを維持できるように検討している。(友人、美容院、医療機関、社会福祉協議会など)		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の消防・避難訓練、年2回の法定の消火・通報・避難訓練を行っている。急変時に対応できるように、普通救命講習を受講した年度もある。AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努力している。居室に入る際はお声掛けして入室するように心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことを希望しておられるのか、日常の動きの中から気付いたり、スタッフが声掛けしながら、自己決定できるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし集団生活の中でも一人の時間を大切に過ごして頂いたり、自主的に何かしたいと希望されれば、できる限りは叶えられるような支援をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等をする事で、より達成感を満たせるよう支援しています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを工夫しながら、偏りがないように気を付けています。チェック表を使用しながら、個々に必要物を提供できるようにしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアは声かけをし、ご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを見つけながら、自然な流れでトイレへ向かえるよう、声掛けしています。できる限り自立できるように支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くないように努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット別になっているが建物内は自由に行き来できるようにしており、一人で移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守り連絡を取り合っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		